

中高生フォトグラファー応援マガジン

boys & girls photo magazine

No.324

TopEye

2025年度第1回TopEyeフォトコンテスト結果発表!



組写真部門

「習慣」 濱本 海里 和歌山県立神島高等学校2年



単写真部門

「陽光」 島貫 菜々 大阪府立生野高等学校3年



2025年度第2回TopEyeフォトコンテスト
募集期間 **6/27金 ~ 9/5金**
当日必着有効

詳細はコチラ



第73回ニッコールフォトコンテスト
スペシャルコンテンツ

締切間近 **7/4金**

詳細はコチラ



2025年度第1回

TopEye フォトコンテスト

自分だけの視点を持った作品が豊富だった今回。真っ直ぐな気持ちで被写体に向き合う姿が、写真から伝わってくるようでした。クオリティは回を増すほど高まっていますが、ますますの成長に期待しています！

組写真部門

組写真ならではの特性を存分に生かした作品が揃い踏み。受け手側の想像力を掻き立てる豊かな表現が目立ちました。綿密な構成や写真のセレクトにも個々のセンスが光ります。



賞状 CREATORSグッズ5点

「習慣」 濱本 海里

和歌山県立神島高等学校2年

「家の洗面所というパーソナルスペースを選び、一人の少年を淡々と撮った作品ですが、雑然とした生活感がある中で“よくぞ絵にした”という強いインパクトを感じました。視線を固定して撮ることで、コンパクトな空間の中に詰め込まれた少年が、せわしく動く様を観察しているような気分になります。被写体の内面が写真を通して見えてくるようです」(熊切)
「室内の限定された照明の中でも、うまく人物が浮かび上がるように、しっかり光を読み取りながら撮影ができています。連続性のある写真という切り口で、被写体の人となりをリズムよく捉えていて、さらに色彩もある程度絞っているため、生活感のあるシーンでも人物が際立ち、少年の存在感が立体的に。完成度の高い仕上がりに引き込まれました」(秋山)

受賞のコトバ

TopEye賞に選んでいただきありがとうございます。この写真は弟がはみがきをしている様子を撮影したものです。海外では自然災害や戦争などで自宅を失うなど、普通の生活を送れない方がたくさんいます。何気ない日常を送ることが、本当はすごく貴重なのかもしれません。日々の暮らしを撮影できることに感謝して、これからも写真部の活動に励んでいきたいと思っています。この写真が撮れたのは、家族と尊敬する恵納先生のおかげです。ありがとうございました。





「Hand」谷坂 陽菜

八代白百合学園高等学校3年(熊本県)

「手というテーマのもと、徹底して自分の世界観を作り上げることが素晴らしいです。見事なバリエーションで撮影でき、この3枚のみならず、今後も無限大にアイデアが引き出されていくのだろうなという期待が持てます。上質な広告写真を見ているような印象も受けました。世界へ羽ばたける素質があると思うので、自分らしさを磨き続けてください」(熊切)
「1点1点の写真が、何を表現しているのか読み取る楽しさを与えてくれる作品。色や形などの面白さ以外に、裏側でどんな意味を持たせているんだろうと考える余地を持たせています。手のサイズ感や背景の取り入れ方が均一のため、一体感を持って見ることができ、組写真として成立している構成。細かなところを見ても、撮影者のこだわりが詰まっています」(秋山)

受賞のコトバ

金賞受賞という連絡に、驚きと同時に大きな喜びを感じました。この作品では、身近な「手」をテーマに、異なる世界観や質感を組み合わせ、不思議でポップなイメージの表現を目指しました。また友人と共同で作業し、じっくり時間をかけたので、思ったより大変でしたが、撮影は楽しいものでした。自由に発想することの面白さが、見る方にも伝われば幸いです。今回の受賞に対して、改めて心から感謝いたします。



「わたし」川下 未夕

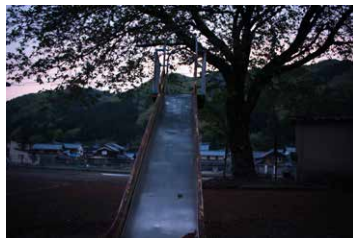
日本大学第三中学校・高等学校
高校1年(東京都)

「〈わたし〉は、夕暮れ時と夜の都市スナップですね。微妙にあたりが暗くなっていくマジックアワーを上手に落とし込めています。ブレで動感を出したり、アウトフォーカスで光を滲ませ、夜の街に起こる光をバリエーション豊かに表現できています。4枚すべて光の写真にし、同じ世界観でやりきっても統一感が出たと思います」(熊切)

「春の余韻」京谷 実咲

福井県立丹生高等学校1年

「〈春の余韻〉は、みんながきれいだという春をちょっと過ぎたところに焦点を向けているのがポイント。自分自身が面白いと思うものをきちんと見つけてテーマにしていますね。手に桜を持ったカットがあることにより、私だけが発見したという印象になっています。背景の取り入れ方に変化があるとさらによいと思います」(秋山)





「〈幸せ〉は、遊具が生み出す子供たちの動感をダイナミックに感じる作品ですね。少年の顔写真に、やんちゃ坊主な雰囲気が出ていてかわいらしいです。この1枚があることで写したかった世界観が作られている気がします。大人の目線にならずに撮影できているので、公園で子供たちがそれぞれの楽しみ方で遊んでいることも伝わってきます」(熊切)
 「〈春を探しに〉は、季節が徐々に春に移り変わる様子を写し出しているのですが“春って地面からスタートするのかな”と思う撮り方。その様子を子猫が見下ろす姿に、優しさがあふれています。いろいろなアングルから被写体に合わせ、美しく切り取ることで、季節というものを立体化させ、春を全体から感じられる作品になっています」(秋山)

「雪の日」木吉 彩乃 八代白百合学園高等学校3年(熊本県)



「春を探しに」岩田 麻央 帝塚山学院中学校高等学校中学3年(大阪府)



「幸せ」 山中 すみれ 和歌山県立神島高等学校3年



全国高校生写真サミットへの道!

開催
決定

2026年1月30日～2月1日にニコン本社にて、全国高校生写真サミットの開催が決定しました。
第1回～3回までのTopEyeフォトコンテストでの単・組合計の入賞ポイントの獲得が高い上位10校が参加対象となります。
TopEyeフォトコンテストにたくさんチャレンジして、全国高校生写真サミットのキップを手に入れよう!

組写真^{部門}

2025年度 成績中間発表vol.1

単写真^{部門}

1位	和歌山県立神島高等学校	190pt
2位	八代白百合学園高等学校	170pt
3位	帝塚山学院中学校高等学校	90pt
4位	群馬県立富岡実業高等学校	20pt
5位	宮城県白石工業高等学校 中越高等学校 福井県立丹生高等学校 日本大学第三中学校・高等学校	10pt

1位	大阪府立生野高等学校	100pt
2位	和歌山県立神島高等学校	90pt
3位	神戸国際大学附属高等学校	80pt
4位	八代白百合学園高等学校	60pt
5位	広島県立庄原格致高等学校	40pt
6位	錦城高等学校	30pt
7位	沖縄県立浦添工業高等学校 神奈川県立横浜瀬谷高等学校 トキワ松学園中学校・高等学校 千葉県立四街道高等学校 帝塚山学院中学校高等学校	20pt
12位	福岡県立柏陵高等学校 福井県立丹生高等学校	10pt



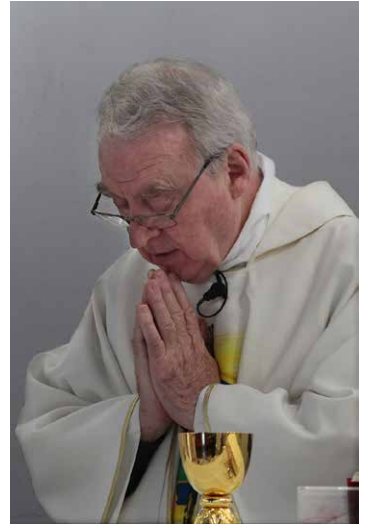
次回締切 9/5(金) 当日必着



「〈思いを込めて〉は、弓道という自分に向き合うスポーツを、静かな切り口で撮影していますね。弓を作っている職人さんだけで留まるのではなく、最終的に使い手に渡るところまでを丁寧に汲み上げ、時間をかけてひとつのテーマに取り組んでいる点も高く評価させていただきました」(秋山)

「〈聖なる日〉は、教会という祈りの場を持つ独特の空気感や“静かさ”という音が聞こえてきそうな作品です。優しい祈りが、空間を優しく包み込んでいるようなイメージで見ることができました。被写体それぞれが、きっと何か美しいものを心の底から願っている、そんな信仰への真っ直ぐな想いも汲み取れます」(熊切)

「聖なる日」古閑本 茉弥 八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



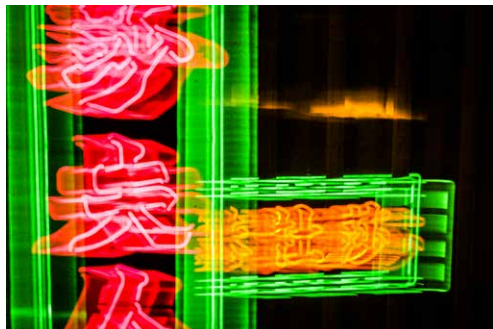
「Next season」今井 奏良 群馬県立富岡実業高等学校3年



「思いを込めて」 生島 百華
八代百合学園高等学校3年(熊本県)



「光夢流転」 玉置 莉子
帝塚山学院中学校高等学校高校2年(大阪府)



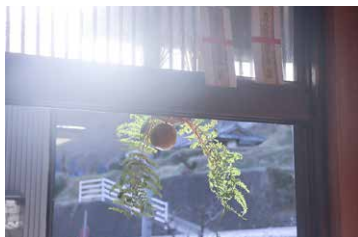
「閃き」 眞中 理沙 帝塚山学院中学校高等学校高校3年(大阪府)





「〈玄武洞〉は、岩石層という、面白い被写体を見つけましたね。色味は全部同じでも、質感や形をうまく撮影できています。限られた条件の中、正面や斜めなど、いろんな角度から切り取り広がりのある表現を可能にしています」(秋山)
「〈公園〉は、正面から強い光を当てているため、報道写真のようなドキュメンタリー的な印象を生み出していますね。遊具がバリケードのようだったり、デモの最中のような表情だったり、異質の世界を表現できています」(熊切)

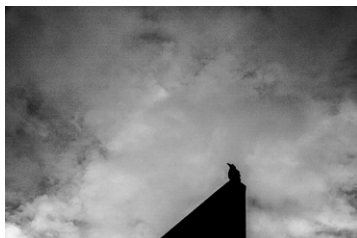
「1月某日」 田組 夏風 和歌山県立神島高等学校3年



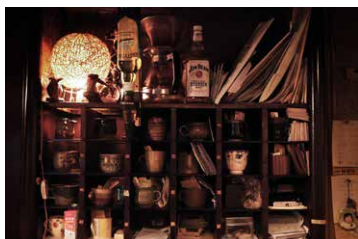
「海に見える村」 岩寄 朱里 八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



「喧騒の町、静寂の空」 三條 颯太 宮城県白石工業高等学校3年



「香るひととき」 瀨本 花音 八代白百合学園高等学校3年(熊本県)



「生きがい」 吉本 実央 和歌山県立神島高等学校3年



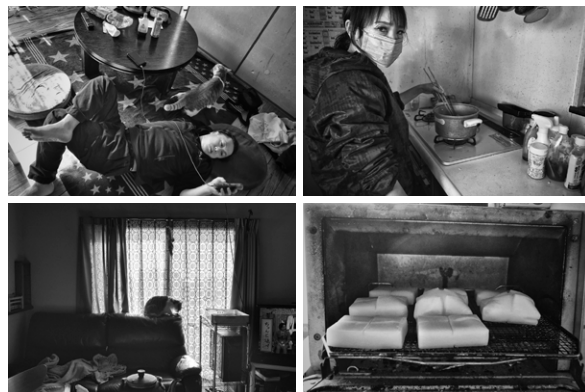
「飛沫」 中芝 海里 和歌山県立神島高等学校2年



「玄武洞」 伊藤 佳穂 帝塚山学院中学校高等学校 中学3年(大阪府)



「正月」 横尾 凜 和歌山県立神島高等学校3年



「公園」 森本 一柊 和歌山県立神島高等学校1年



「エール」 荒井 七美 中越高等学校3年(新潟県)



2025年度 第1回総評

ストレートな表現に純粋な心を感じました

熊切：スマホで見慣れているためか、縦で見せる作品が多く、時代の特徴が現れているように感じました。テクニックを駆使した撮り方というよりも、被写体にピュアにカメラを向けている作品も印象に残りましたね。一方で、たくさんの作品から刺激を受け、技術を取得することも大切。“撮りたいものをもっとよく撮る”というファイトを持って欲しいです。秋山：確かに、素直な気持ちで被写体に向き合った作品が目立っていましたね。どれも素敵でしたが、技術が上がれば上がるほど新たな発想が浮かんだり選択肢も増えるもの。TopEyeに応募しようという初期衝動も大事にしながら、自分の想いを形にするため、継続して技術面を磨いてほしいですね。

熊切：そう。続けていくことがよい写真を撮るための一番の近道。前回も応募して入賞された方が、また今回も新たな作品に挑戦して、成長している姿が見れた事も嬉しかったです。秋山：審査する上で、作品に対してどんな用紙をセレクトしているのかもチェックしています。初回の応募からマット紙を使っていたり、光沢紙もいろいろな種類からベストなものを探しているのが見て取れ、プリントのクオリティにこだわりがある作品があったのも、とてもよかったと思います。熊切：みなさんが、オリジナリティのあるテーマをしっかりと見つけられていることにも感心しました。今後さらに表現する力を伸ばしていただきたいと思います。



審査員 秋山 華子

大阪芸術大学写真学科卒業後、写真家・織作峰子氏に師事。大阪芸術大学写真学科非常勤講師。ニコニコレレッジ講師。ニコニコクラブ アドバイザー。公益社団法人 日本写真家協会会長。

審査員 熊切 大輔

東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部を経てフリーランスの写真家として独立。ニコニコレレッジ講師。ニコニコクラブ アドバイザー。公益社団法人 日本写真家協会会長。

単写真部門

自分の好きな世界観が確立されている作品が多かった単写真部門。1枚の写真に込められた、あふれ出る感情のパワーを感じずにはられません。奇跡のような瞬間を逃さず捉える技量も高く評価される結果となりました。



賞状 CREATORSグッズ5点

「陽光」島貫 菜々

大阪府立生野高等学校3年

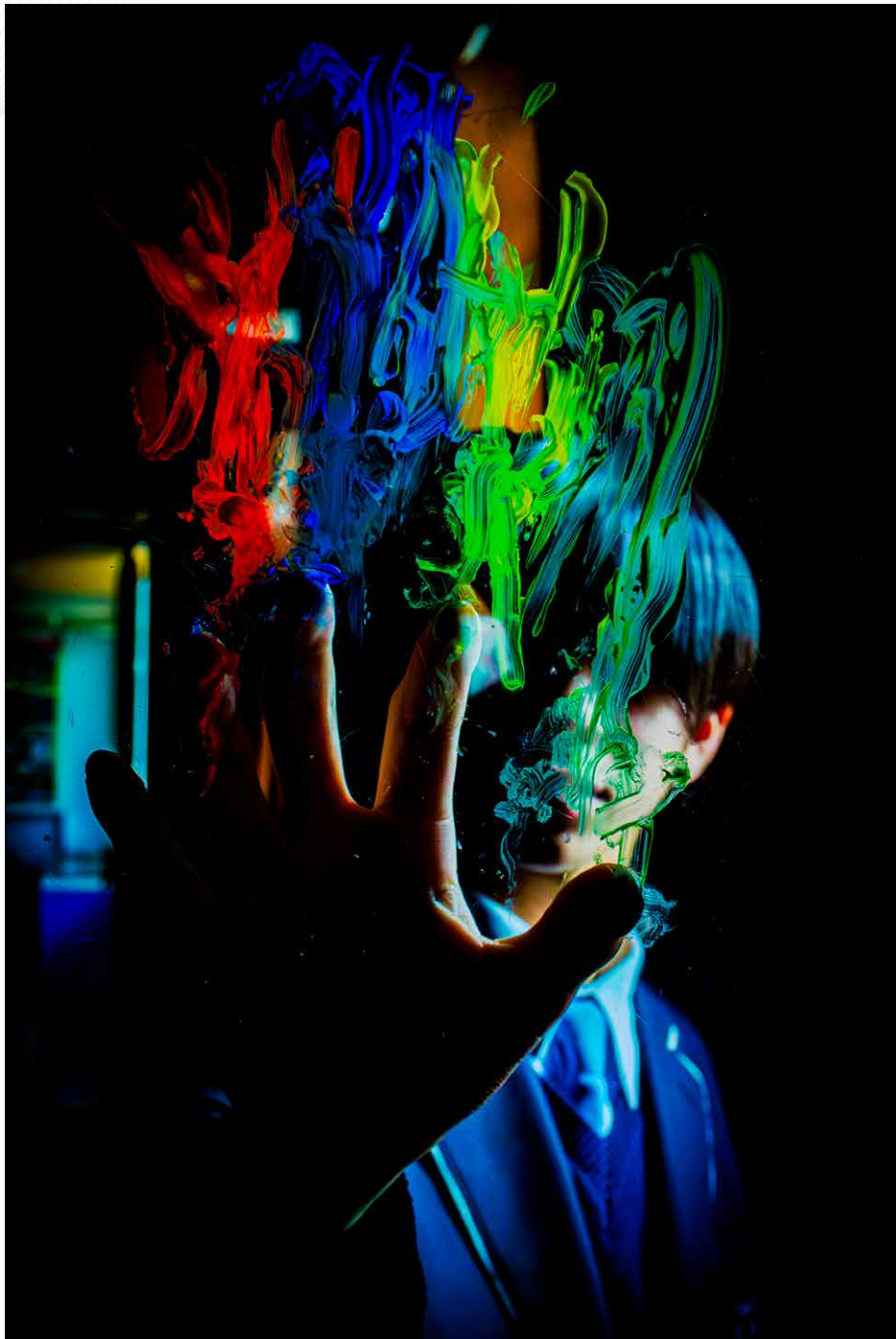
「室内は薄暗く、外は逆光で眩しいという光のグラデーションが美しいです。カーテンが風でふわっとなびき、玄関に風の通り道ができて、何かが抜けていくような気持ちよさを感じます。さまざまな情報が上手に詰め込まれていますね」(熊切)

「静けさの中、カーテンの動きを取り入れることで、家で過ごす日常の中でキラリと輝く、何か儚い一瞬を感じさせられる作品。焦点距離や露出、光の取り入れ方もお見事。人物も意図的にならず、すごく自然な表情をした瞬間をキャッチできていて、とても素敵だと思いました」(秋山)

受賞のコトバ

先生に入賞のご連絡をいただいた時、まさか自分が選ばれるなんて信じられない気持ちで、家族全員に知らせました。この写真は、玄関に入り込む日差しと風になびくカーテンが人物と調和している美しさを感じて撮りました。自分にとって光の美しさを改めて感じた1枚です。こんな賞を取らせていただけるまでご指導いただいた先生と部員のみんな、いつもモデルになってくれる家族に感謝しかありません。





「見えない自分」 金山 基枝

神戸国際大学附属高等学校3年(兵庫県)

「ミュージシャンのアーティスト写真のような、カッコいい演出が成立しています。指でなぞるように手を差し伸べている様子もライブペイントしているような臨場感があり、インパクトの強いワンカットになっています。色彩の豊かさもバランスがとてよいと感じました」(熊切)

「青年の時期に、自分という存在と向き合おうとしている感覚を思い起こされる作品です。ランダムに色が塗られている様子も、葛藤のようなものを表現できていて、一枚の作品に感情をきちんと封じ込めることができていると思います」(秋山)

受賞のコトバ

この度は金賞に選出していただいて本当にありがとうございます。これからどんな写真撮っていけばいいか悩んでいたときにこんな金賞をいただいてすごく背中を押された気がします。アクリル板を使ってモデルに絵の具を塗ってもらってこの作品ができました。カッコいい写真にしたかったので影をいっぱい使ったんですけど、絵の具の色をどう出すかに苦戦しました。これを糧にこれからも写真を頑張っていきます。



賞状 CREATORSクロス

「ラビリンス」 福永 圭桃

トキワ松学園中学校・高等学校 高校1年(東京都)

「〈ラビリンス〉は、異次元にいるような違和感を表現した作品。複雑な内面を体現してますね。表情とポーズ、後ろの渦巻きにもカオス感が漂い、若者の心の中を垣間見ているよう。目力を効かせるなど、目の感情を出す指示が出せるようになるとより面白い演出になるはず」(熊切)



「何気ない日常」 堂前 海輝

福井県立丹生高等学校1年

「〈何気ない日常〉は、登下校中の友達同士の様子がこっそり切り取られていて、微笑ましいですね。レンガに光が当たっている状況もふたりの世界に入り込んでいる印象を味方しています。人物にピントが来ていないので、ベストな合わせどころを見つけられたら、さらによくなるはず」(秋山)



「命のたまご」 花城 彩音

神戸国際大学附属高等学校1年(兵庫県)

「鳥の体は写っていませんが、これ以上引くと卵を温めている重要なポイントがわかりにくくなるので、細く長い脚や真っ赤な顔など最低限のフミングらしさだけ残した構図がよいです。とても素敵な作品ですが、あともう少し大胆にヨリで撮るとっても面白い絵になりそうです」(熊切)



賞状 CREATORSキャップ

「(Splash!!)」は、勢いよく水が出た瞬間の、三者それぞれが素敵な表情をしている一瞬を逃さずにシャッターを切れたことが素晴らしい。何回もできることではないはず。シャッタースピードの選択も的確で、水が出てくる激しさや弾ける感じがしっかり一枚の写真に表されていて、見応えのある作品になっています」(秋山)

「(集う)」は、四角い小窓の狭いスペースに猫が並んでいるシチュエーションだけで絵になってしまいますね。その表情からかわいいというよりも、猫の図太さたくましさ写っている作品だと感じます。被写体をど真ん中にして撮るのではなく、余白をうまく使えているのもポイントです。たくさんの長方形をパズルのように並べて画面を埋めていて、構図のバランスと猫の存在感が面白くマッチしてると思いました」(熊切)

「Splash!!」井上 紗恵
広島県立庄原格致高等学校3年



「はみがき」森本 一柊
和歌山県立神島高等学校1年



「集う」谷坂 陽菜
八代白百合学園高等学校3年(熊本県)

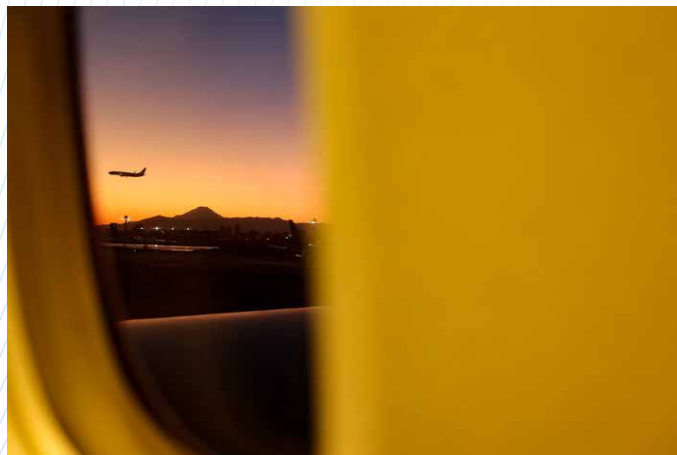




賞状 CREATORSタオル

「〈また来るね〉は、あえて飛行機の機内の壁や窓枠を取り入れる額縁構図にしている、奥の小さい景色を画面整理して注目させる撮り方になっています。加えて、旅人の目線であることも分かりますね。『見覚えがあるな』と思わせる旅情の効果も出ていて、感情をくすぐられました」（熊切）
「〈光と水〉は、あらかじめどう撮るかをしっかり考えた上で作られた作品だということが伝わります。斜めから捉えた画角が水しぶきの勢いとマッチしているし、周辺減光を使うことで被写体が立体的に浮かび上がっているところもよいですね。情報量を増やさず、見せたい部分にぐっと迫ったからこそ感じられるインパクトもあります」（秋山）

「また来るね」幸地 今梨
沖縄県立浦添工業高等学校2年



「フォーメーション」大森 恵太
神奈川県立横浜瀬谷高等学校2年



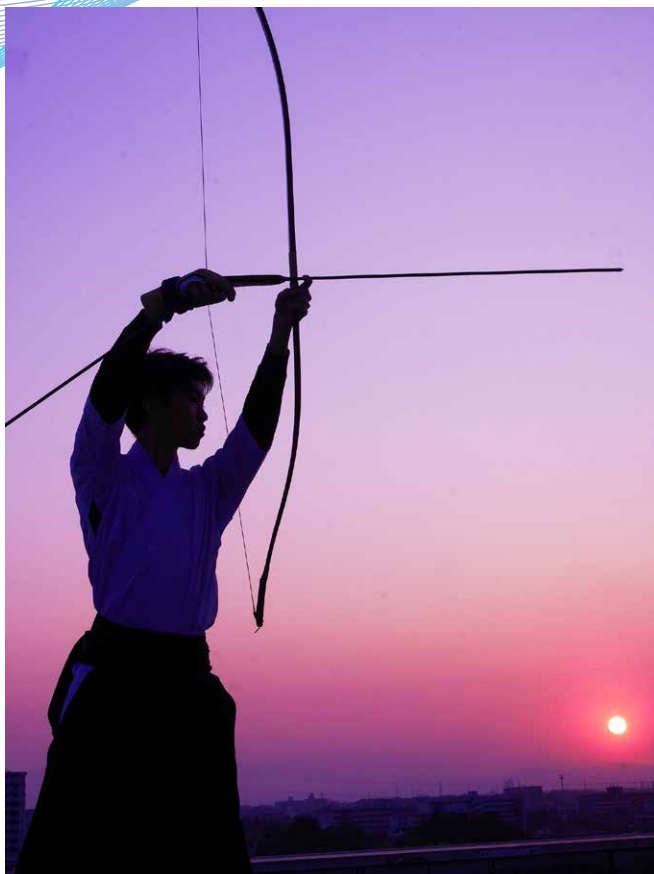
「愛すもの」山中 すみれ
和歌山県立神島高等学校3年



「光と水」喜多 楓花
帝塚山学院中学校高等学校 高校1年(大阪府)



「入魂」砂野 結月 錦城高等学校3年(東京都)



「うわああああ」 山中 茉瑚

トキワ松学園中学校・高等学校 高校3年(東京都)



「oh…」 山根 楓

和歌山県立神島高等学校2年



「ロックオン!!」 吉永 有沙

八代白百合学園高等学校3年(熊本県)



「沈黙の信頼」 佐藤 さよ

錦城高等学校2年(東京都)



賞状 CREATORSステッカー

「〈解放〉は、逆光と陰を使ったシルエットの表現に挑戦した作品ですね。髪の毛がふわっと動いた瞬間を収めることで、人の存在感が表れています。長方形の窓枠に人物というおとなしい構図でも、人物のポジションで、構図に変化を出すこともできています。情報量としてはとてもシンプルですが見応えを感じました。シャドウ部分をもう少し調整すると、ナチュラルさが加わってより素敵になると思います」(熊切)
「〈うわああああ〉は、明らかに演技をしていることがわかる、コミカルさが面白いと思いました。頭を抱えている先生と、遊んでいる学生という設定で被写体に指示しながら自分が描いたドラマを一枚に落とし込む工夫がうまく凝らされています。学生は陰の中にいて、先生だけに光が当たっているところもよく、自分自身や誰かを被写体に当てはめてみるなど、見る人によって違う解釈ができる作品だと思います」(秋山)

「秘密」 小川 莉愛

千葉県立四街道高等学校3年



「私の青春」 大山 陽緒里

千葉県立四街道高等学校3年



「解放」 岡田 莉瑠

八代白百合学園高等学校3年(熊本県)



「変身」 中畑 心

和歌山県立神島高等学校3年



「哀愁」 岡 凜花

和歌山県立神島高等学校1年



「壁ドン」 松尾 綾音

福岡県立柏陵高等学校3年



TopEyeフォトコンテストの審査は
どのように行われているのか、その様子を少しだけ公開。
次回も皆さんのたくさんのご応募をお待ちしております！

TopEye フォトコンテスト 審査会 レポート

1

まずは各部門ごとに
気になった作品をピックアップ



部屋にずらりと並ぶ全応募作品。そこから審査員の先生一人ひとり、気になる作品を選んでいきます。

2

裏側の作品詳細まで
きちんと目を通します



審査中は真剣そのもの。裏面に記載された作品名やコメントまで読み込み、じっくりと作品に向き合います。

3

徐々に作品数が
絞られてきました！



何時間もかけて作品を絞ったあとは、審査員の先生2人で相談しながら受賞作品を決定します。

4

最後の1枚まで
2人で妥協なく審査！



本気の審査ゆえ、時には意見が分かれることも。すべての賞が決まると、審査会場は拍手で包まれます。お疲れ様でした！

“オリジナリティ”を追及した作品を待っています

今回は初めて応募してくださった方も多く、新鮮な気持ちで審査をさせていただきました。被写体に向き合って撮影するときは、一度冷静に頭の中を整理して、“どこに惹かれたのか”を明確に表現するトレーニングを行うと、作品にオリジナリティが生まれてくると思います。



ここ数年は、モノクロ写真など世間が思う“高校生らしさ”とはまた違うテンションの作品が多い気がします。とにかく自分が本当に興味を持った被写体を探して、かつ自分なりの表現に落とし込んでいく“オリジナリティ”を皆さんには頑張って見つけ出してほしいですね。

TopEye's OB&OG interview

今に子先輩を 訪ねて。 vol.4



市川叶夢さん

群馬県立富岡実業高等学校卒業。写真部では部長を務める。2024年度TopEyeフォトコンテストにて「Poker Face」でTopEye賞を受賞。現在は社会人として働きながら写真活動を続けている。

@kana_0_3_2_0

愛用カメラ Nikon D500

「ずっしりした一眼レフ感」が好きで、高校時代に愛用していました。撮ったときの音もいいし、重厚感があると撮影時も安定するので自分の作風にも合っていました」



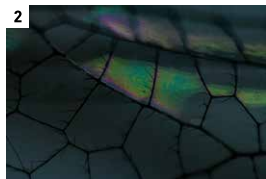
テンプレを跳ね除けて確立した自分のスタイル

「写真の中では静かだね。やんちゃだった小学生の頃、家族や学校の先生からそう言われたことが写真に興味を持ったきっかけです。実際にカメラを手にしたのは中学2年生のとき。キャンプに出かけた先で友達のお父さんのデジカメを借りて、花の写真を撮ったことを覚えています。」

高校で写真部に入学してからは、ただ好きなものを撮るという自由な表現をしていました。生き物を被写体にするのが多かったですね。ですが、自分でジャンルをネーチャーに絞ることはしたくありませんでした。1年生の頃、牛を被写体にした「Cattle」という作品である賞を受賞したとき、顧問の先生からジャンルを絞ったほうがいいと助言をもらいましたが、「好きにやらせてください！」と。当時の先生はとても指導力があり、現像や露光などについても常に、入選するための最適解を教えてくださいました。けれど僕は自分のスタイルを確立することでの力をつけたかったので、そのテンプレを跳ね除けてばかりいました(笑)。

作品を撮るときはまずストーリーから考えます。これはあるコンテストで日本大学芸術学部から「君の写真はキレイなだけでストーリーがない」という評価をもらったことがきっかけ。聴いた曲や読んだ本など、身の回りのものを作品に落とし込むことをよくしていました。大事にしていたのは光の入れ方です。たとえば一般的に露光量は多めにしておくといわれていますが、自分は暗い写真が好きだったので、現像に頼らずに撮ったまま作品として出せるくらいの世界観を表現できるようにしていました。マクロレンズ&マニュアルで息を止めて狙いを定めている間は「生きているな」と実感します(笑)。むやみに連写をして枚数を稼ぐのではなく、一枚一枚に魂を削りながら撮っていたし、SDカードには常に作品にできるものしか残さないように心がけていました。

学生の皆さんに言いたいことは、今だから撮れる写真を撮ってほしいということ。今という青春を大事に、自分らしさを見つけてほしいです！



1_2024年度第2回TopEyeフォトコンテストTopEye賞「Poker Face」。
2_2023年度TopEyeフォトコンテスト佳作「千の風に乗って」。



PARIS

市橋織江 (PIE BOOKS)

私が憧れる写真家、市橋織江さんの写真集。その中でも特にお気に入りなのが、「変わらぬパリの情景」を収めたこの風景集です。淡い光に包まれた街角や、何気ない人々の表情、彩り豊かな花々……。ページをめくるたび、パリの穏やかな空気感が伝わってきて、人々の声さえ聞こえてくるように感じます。市橋さんの写真は、ふんわりとした優しい色調の中に、見る人の胸を揺さぶるドラマやメッセージが込められており、見返すたび新たな発見があるところが好きです。旅先で自分もこんなふうに光や空気を捉えてみたいと思わせてくれる、大切な一冊です。

M/E 球体の上 無限の連なり

川内倫子 (朝日新聞社)

川内さんの写真展で購入した作品集。北海道やアイランドで撮影された雄大な風景と、日常の些細な瞬間たちがこの一冊に収められています。一見対照的な情景が、どれも同じ重みで丁寧に切り取られているところがこの写真集のすごいところ。すべての事象がひとつにつながっていると感じた瞬間、副題である「無限の連なり」に腑に落ちた感覚がありました。同時に私たちはどれだけ物事の見かけや先入観にとらわれていたのだろう、もっとフラットな視点で写真を撮ってもいいのでは、と気づきを与えてくれる一冊になりました。

My Recommended Photobooks vol.2



櫻子さん

埼玉県本庄市出身。早稲田大学文化構想学部卒。多重露光を用いた儂い世界観の表現が得意。自治体や企業のタイアップ、写真教室やワークショップも行う。令和6年度埼玉県広報アンバサダー。愛用カメラはNikon Zf。

@sako_photo

HP:sakophoto.portfoliobox.net

WEB・SNS展開中!

チェック&フォローお願いします

TopEyeの公式Instagramでは、コンテストの入賞作品や取材のひとコマ、写真展案内など日々更新中。また、ニコンイメージングジャパンの公式LINEではニコンの製品やキャンペーン、ニコンプラザなどの最新情報をお届けします。ぜひフォローしてください!



「TopEye」
Instagram



ニコン
イメージングジャパンLINE



ニコンイメージングジャパン
「TopEye」WEBサイト